

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合 研究事業）  
分担 研究報告書

要介護状態の評価における多様な身体障害の状況の適切な反映手法の開発に関する研究

分担研究者 西村 秋生 （国立保健医療科学院）

研究要旨：

現在介護保険において用いられている要介護認定一次判定ロジックを若年層に拡大する場合は、当該層を対象としたタイムスタディを改めて実施する必要がある。本年度は、厚生労働省が実施するタイムスタディに使用するケアコード、心身の状況に関する調査票、およびそれぞれの使用マニュアルの作成を目的とした検討を行った。本研究の成果は、現在厚生労働省の事業として実施されているタイムスタディにおいて現在使用されている。

A. 研究目的

現在介護保険においては、支給額、支給限度額を決定するために、給付申請者に対して要介護認定を実施している。この要介護認定で用いられている一次判定プログラムは、4000人以上を対象者として行われたタイムスタディを元にロジックが構成されている。今般、行政上の判断として、介護保険の被保険者を、現在の40歳以上から、若年層へ拡大する可能性が指摘されている。しかし、上記タイムスタディは現在の介護保険の対象者に対して行われたものであるため、若年層に対してはその適用の妥当性は担保されない。そこで本研究では、タイムスタディを実施するのに必要な、ケアコード表と心身の状況に関する調査票、およびそれぞれの使用マニュアルを、若年層に適用することを念頭に再検討することを目的とした。

B. 研究方法

現在使用されている一次判定ロジックの元となったタイムスタディに使用されたケアコードおよび心身の状況に関する調査票とそれぞれのマニュアルをたたき台とし、若年層に置いて想定される対象者の特性に応じた各分野の専門職を集めた検討会議を開催し、エキスパートコンセンサスを得る形でそれぞれの改訂を行

った。

（倫理面への配慮）

本研究は人間を対象としておらず、調査票に対する検討会議を行う形であったので、実質的に倫理面での配慮は特に必要ではなかった。

C. 研究結果

たたき台となったケアコード、心身の状況に関する調査票、およびマニュアルは、介護が必要な高齢者を想定して作られているため、施設入所者において最も回答しやすいものとなっている傾向があった。若年の要介護者は在宅で生活している事例が多く、また施設においてもそこから外部のサービスに通うなど、生活の幅が広いため、現行のケアコード、調査票では該当する選択肢がない、回答できないなどの問題点があることが、各分野の専門家から指摘され、修正点が明らかになるとともに、適切な修正案が提示され、最終的に研究班案として改訂版のケアコード、心身の状況に関する調査票を作成することができた。

D. 考察

本年度厚生労働省事業として予定されていたタイムスタディは、当初現在の対象者である高齢者と、若年層とに同時に実施する予定であったため、本研究成果はその実施に必要な

ものであった。結果的には諸般の事情により若年層でのタイムスタディの実施は見送られ、本研究成果であるケアコードおよび心身の状況に関する調査はほぼ高齢者のみを対象として実施されることとなった。しかし介護保険の対象層拡大に関する議論は現在も引き続いており、その結果如何によっては再び若年層におけるタイムスタディの実施が必要となる可能性もあるため、今回高齢者を対象に、本研究成果を使用したタイムスタディを実施したことは意味のあることであろうと考えられる。

#### E. 結論

介護保険の対象者を拡大するにあたって必要な要介護認定一次判定ロジックの改訂にともなうタイムスタディの実施を想定したケアコードおよび心身の状況に関する調査票の改訂を

行った。

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
特になし。
2. 学会発表  
特になし。

#### G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
特になし。
2. 実用新案登録  
特になし。
3. その他  
特になし。

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合 研究事業）  
分担 研究報告書

発達障害における介護ニーズの評価に関する研究

分担研究者 湯汲 英史 （（社）精神発達障害指導教育協会）

研究要旨：本研究の目的は、知的障害も含めた発達障害を持つ人の介護ニーズを反映する、「心身の状態評価項目」および「ケアコード」等の評価方法を新たに開発することである。そして開発した評価方法をもとに、施設や地域で生活する発達障害を持つ人の要介護度を計測し、その妥当性や信頼性を検証するとともに、より公正中立性の高い評価方法を求めて、修正を行うことである。ところで今回の研究経過の中で特筆すべきは、知的障害、自閉性障害など発達障害の特性を勘案した「ケアコード」「認定調査票」への改訂が、関係諸団体より強く求められたことである。

本来は、主として「介護」という側面に着目した評価方法の開発が目的であった。しかし発達障害という特性から、他の障害とは違う、介護内容の拡大・拡充が求められた。それらの要望を検討するとともに、第一次に作成した評価法を使って実施された障害程度区分の結果分析、および新たに予定されているタイムスタディについて検討・準備を行った。

なお、発達障害を持つ子どもへの障害程度区分についても検討を行った。発達途上にある子どもの場合は特に、「障害」と「未熟」の区別がつきにくい。今回は新たに「発達の評価表」を作成し、あわせて支援・指導の際の発達課題やその指導法を示した冊子を作成した。今後は、この冊子をもとに実際に評価を実施し、障害程度区分に使用できる「評価項目」などを抽出する予定である。

## A. 研究目的

本研究の目的は、

- 1) 知的障害も含めた発達障害を持つ人の介護ニーズを反映する、「心身の状態評価項目」および「ケアコード」等の評価方法を新たに開発することである。特に知的障害を含む発達障害については、介護における特質を検討し、公平中立性から見てより適切な評価項目を探ることである。
- 2) さらには、それらの評価方法を用いて行う認定調査のあり方の検討、「タイムスタディ」への準備条件を整備することである。
- 3) あわせて、知的障害も含めた発達障害を持つ子への要支援、要介護に関し、程度区分の際に使う評価項目を抽出することである。

## B. 研究方法

### 1. 対象

#### 1) 障害者本人

知的障害を含む発達障害を持つ人々で、地域において居宅介護等支援事業等の福祉サービスを受けている在宅生活者、およびグループホームなど施設で暮らす者である。具体的には、障害程度区分認定の対象となった人、および東京都北区の作業所利用者などである。

#### 2) 障害程度区分の決定に関与した専門職等 区分決定に関与した、行政や福祉関係者などである。

#### 3) 発達障害を持つ子ども

あわせて今回研究の対象には、発達障害を持つ子どもが含まれる。(新規に作成した評価表を60名の子どもに適用した)

## 2. 調査方法

1) 本人および「心身の状態評価項目」および「ケアコード」の内容に関する調査

「心身の状態評価項目」および「ケアコード」の開発では、評価項目と障害者本人の状態における「あてはまり度」を知る必要がある。今回、知的障害に関しては全国で86,368名を対象とした障害程度区分の認定調査が実施された。当てはまり度を含め、その結果について検討、分析した。

あわせて、状態評価項目およびケアコードについて、内容、それからその定義についての検討を続けた。特に認定調査の際の配慮点、留意点を知るために、知的障害を持つ本人への面接等を行った。

それとともに、程度区分の決定に関与した人々に、項目等についてのヒアリング調査を実施した。(主に金沢市の関係者)

2) 認定調査のあり方とタイムスタディへの準備

認定調査や認定審査会における課題について、金沢市などで関係者にヒアリング調査を実施した。

またタイムスタディについては、知的障害の特性を踏まえ、調査の実現性や信頼性の面等から検討を続けた。

3) 発達障害を持つ子における要支援、要介護の程度区分

たとえば知的障害では、40歳の成人男性に対して「3歳レベルの知能」と表現したりする。このような表現は、身体や精神の障害ではありえないであろう。「～歳レベル」と表現する理由は、知的障害は発達途上の障害だからである。知的障害の場合、子どもと成人のあいだには、障害の内容および介護ニーズの必要度などが必ずしも明確に分かれておらず、両者は連続線上にあるともいえる。

今回、子どもにおける状態把握を目的に、医師・言語聴覚士・臨床心理士などで、調査のための「発達の評価表」を作成した。

## 3. 調査内容

1) 「心身の状態評価項目」および「ケアコード」の内容に関する調査

86,368名の障害程度区分の認定調査をもとに、「非該当」から「区分6」までの7区分における障害程度の分布を検討、分析した。

認定調査項目では、「知的な機能や精神状態」に関するものを中心に、知的障害、自閉性障害などの特性を調査した上で、項目の追加を行った。また認定調査の際に使われるマニュアルに向け、評価が適切、公平に行われるように「定義」を調査・検討した。

あわせてケアコードを決める際には、知的障害の特性を配慮した内容になるよう調査した。

項目等のヒアリング調査では、項目だけでなく、「できない」と、機会が「ない」ためにできないなど、実際の評価時における課題を中心に調査した。

2) 認定調査のあり方とタイムスタディ

適切な程度区分が得られるよう、認定調査の仕組み、進め方、また認定調査会での課題などを調査した。

またタイムスタディについては、知的障害者対象の作業所指導員等への面接を行い、実現のための課題を調査した。

3) 発達障害を持つ子への評価表への適用

新規に作成した、「理解」と「社会性」の二軸から成り立つ評価表を、知的障害、自閉性障害などを持つ、年齢は4歳から18歳までの子ども60名に適用した。このことで、発達障害の状態評価に必要な項目が何かを調査した。

4) 倫理面への配慮

知的障害を持つ人本人については、調査の目的と内容を説明する際に、言葉だけでは不十分な場合は、図なども用いて理解を求めた。

あわせて、個人名もふくめ個人に帰属する情報は秘匿される旨を伝えた。

## C. 研究結果

### 1) 「心身の状態評価項目」および「ケアコード」の内容に関する調査

障害の分布だが、86,368名の認定調査により、二次判定後は中央値の区分3を中心におおむね山型に分布していることがわかった。知能は正規分布すると考えられている。知的障害には、正常偏倚の「生理型」と、「病理型」の二種があるとされる。病理型の存在は、正規分布で予想される以上に、知的障害の発生頻度が高いことで示される。この病理型は、介護ニーズが高い、重い障害の人たちにしばしば見られ、今回調査で区分6や区分5の多さを説明している可能性がある。

認定調査項目では、ICFの考え方を受け入れて「家や地域における日常の活動レベル」という領域を設けた。このことで、家や地域での活動や参加を促すことになるとも考えた。

ケアコード作成の際にも、許される範囲内で活動や参加を促す視点を織り込んだ。

ただ、認定調査項目やケアコードは最終決定までに至らず、検討の段階でとどまった。この理由だが、知的障害、自閉性障害など発達障害の特性を勘案した「ケアコード」「認定調査票」への改訂が、関係諸団体より強く求められたことが影響した。

なおヒアリング調査を通して、認定調査を実施する際には、関係者に多様な疑問、迷い、逡巡などが起こることが明らかになった。認定調査表には、言葉の定義も含めた詳細なマニュアルが不可欠なことがわかった。

### 2) 認定調査のあり方とタイムスタディ

認定調査の関係者からは、自身の知的障害への基本的な知識不足が訴えられている。このことが、二次判定で上位に変更した割合が4割を越えたことに影響している可能性が高い。認定調査に関わる者、あるいは意見書を書く医師に、コミュニケーションのとり方も含め、知

的障害への理解を促す必要がある。

タイムスタディの実施については、前回パイロットスタディとしてのタイムスタディに協力した指導員にヒアリング調査した。その際に、タイムスタディの課題として以下の諸点があげられた①24時間スタディにおける本人への心理的負担②介護だけでなく、複数の支援を、複数の人に同時に行う際の評価のあり方③1分間という区切りの不自然さ。たとえば、着脱介護しているときに本人がパニックになり、それに対し説明しつつ着脱介護し沈静を待つ、その途中で結局は寝てしまった場合、介護目標は達成されず、複数のケアコードが入り混じり、相手の状態によって分単位で評価が変化するのが日々の支援の姿、なぜ1分間でくくって評価すべきなのかがわからないとの意見であった。時間の区切り方には、再検討の余地がある。

### 3) 発達障害を持つ子への評価表への適用

二軸で行う評価表を使い、60名の子どもたちを評価した。約70%の子どもで、評価表が適用できることがわかった。ただ3割にはあてはまらず、知的障害には「できない」といっても、発達的に見れば「障害」部分と、「未熟、未学習」による二種があることが想定された。これらの区別法についてはさらに検討が必要である。

なおその評価表にあわせ、必要な要支援、要介護の内容をプログラム化し、支援法も含め冊子にまとめた。さらに内容を検討し、「評価項目」に組み込める項目を抽出、選択していきたい。

## D. 考察

### 1) 状態評価の課題

知的障害の特性として、まず理解の問題があげられる。抽象語や抽象的な思考が、大半の人たちは苦手である。ただ一般の会話では、これらが多用されるし、認定調査の文言にも抽象語などが用いられている。このために、本人は本当にはわかっていないのに、理解しているように思われる場合がある。

逆に理解はしていても、それを表現できない

場合もある。このために、評価が低くなりすぎる  
ことが考えられる。

さらには、相手が誰かによって言動が変わ  
ることがあげられる。権威的、強圧的な相手の  
場合は、従順だったりする。優しい人には、普  
段できていることでもできなくなることがある。  
人も含め環境依存性が高く、それが評価の際  
にはバイアスとなる。

知的障害について、理解、表現、環境の三  
点に焦点をあて、関係者における基本的理解  
を促す必要がある。このことが評価の信頼性を  
高めることにつながるであろう。(関係者の知  
的障害への理解を促すため、映像教材の作  
成に協力した)

## 2) タイムスタディ、ケアコードの課題

タイムスタディについてはさまざまな課題が  
示されている。知的障害の特徴をもとにピック  
アップすれば、①本人が心理的負担をあまり  
感じないですむ時間の長さ②多様な行為を  
次々に行う人たちへの単線でない複線的な支  
援の評価などが課題である。

ケアコードについては、現在検討中である。  
ケアコードによる調査結果は、程度を区分けし  
たあと、区分ごとに供給されるサービスの質・  
量を決める重要な要素となる。現時点では、  
知的障害を持つ人にどのようなサービスを供  
給するかが定まらないために、認定調査項目  
の諾否も決められない。当然だが、サービスの  
質量を予想させるケアコードについても、同じ  
ように決定できない。

現状は、何のために計るのかよくわからない  
ままに、曇って良く見えない温度計を本人にあ  
てているような状態である。確かに温度計の曇  
りをなくすことも必要である。ただ計測の目的、  
つまりは公的に供給可能なサービスを決め、  
それを公平中立に支給するための認定調査  
であることを明確にしないと、関係者からの同  
意は得られにくいであろう。

## 3) 不適切な「障害程度区分」という名前

関係者へのヒアリング調査を通じて、今回の

認定調査表による程度区分が「障害の軽重」  
を示していないとの意見をたびたび耳にした。  
今回の研究は、もともと障害の程度区分では  
なく、介護ニーズを把握し、介護の必要性をも  
とに区分することにあつた。「障害程度区分」と  
いう名称によって、障害程度が正確に決めら  
れるという過度の期待、またこのものさしで障  
害の軽重を決めるのは許せないとの過剰な反  
応を生み出している。

名称は、研究の当初に示されていた「要支  
援・要介護程度区分」といったものに改称した  
方がよいように思う。

## 4) 対象の問題

知的障害には明確な定義がないこともあり、  
調査対象が本来の知的障害ではない可能性  
がある。今回の心身の状態評価項目をもとに  
した程度区分によって、支援の必要性ばかり  
でなく、知的障害の認定の諾否が示される可  
能性がある。評価項目の決定では、供給でき  
るサービスの質量ばかりでなく、知的障害をど  
う理解すればよいのかという、社会的な視点も  
必要となろう。

## E. 結論

知的障害も含めた発達障害を持つ人の介  
護ニーズを反映する、「心身の状態評価項目」  
および「ケアコード」等の評価方法を新たに開  
発することが目的で研究は始まった。一度は、  
項目、ケアコードともに、現行の調査表等の修  
正を目的とした案ができようとした。ただ、知  
的障害・自閉性障害の特性の織り込みを求める  
声があがり、再度検討することになった。

公平中立性を持った程度区分の決定では、  
介護保険で有効とされ、不服の少ない評価法  
は、重要な参考指標となるのはいうまでもない。  
今後の程度区分の研究では、そのことを認識  
しながら、課題を整理しつつさらに検討を続け  
ていく必要がある。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 湯汲英史: 制度改革の行方 発達障害白書 2007 日本発達障害福祉連盟 3-4p 2006年
- 2) 湯汲英史: 障害概念 発達障害白書 2007 日本発達障害福祉連盟 28-29p 2006年
- 3) 湯汲英史: 障害を一つの特性とみる 心と社会 37巻2号 126-130p 2006年
- 4) 湯汲英史: 本人意見の重視、意思の尊重がさらに世界の潮流へと JLNEWS 2-3p 2007年2月号

### 2. 映像教材・評価表

- 1) 湯汲英史: なぜ伝わらないのか、どうしたら伝わるのか アローウィン 2007年
- 2) 湯汲英史ほか: 発達障害(児)者への要支援・要介護度の評価を目的とした評価表(試案)と支援・指導・介護プログラム 2006年  
※説明文、評価表、プログラムの一部を参考として添付(冊子全体は80頁)

### 3. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

#### 1. 特許取得

なし

#### 2. 実用新案登録

なし

## 本書の目的・構成および使い方

### (目的)

本書は、発達障害（児）者の状態評価を通して、本人の要支援・要介護度合いを知るために作成されました。あわせて評価をもとに、自立にむけての支援・介護が行えるよう、指導課題や具体的な方法を示めすことを目的としました。

### (構成)

本書は、評価表と課題ボックスの二つで成立しています。

評価表は、

- A) 発達の状態を知るためのもの（統一評価表）
- B) 指導の際に考慮すべきことを知るためのもの（補助評価）
- C) 不適切な行動をチェックするもの（不適切行動評価）

の三種類で構成されています。

課題ボックスは、指導課題と指導法を紹介しています。

領域としては、

- ア) 発達の姿
  - イ) 生活（身辺自律項目：食事、着脱、排泄・清潔、手伝い）
  - ウ) 社会生活
  - エ) 運動
  - オ) 認知・手指操作
  - カ) 言語・コミュニケーション（理解、表出、関わり、関わり態度面）
- により構成されています。

### (使い方)

【関わり】と【理解】の二軸ある統一評価表で、課題ボックスを選びます。

もしも、一つの課題ボックスに当てはまる感じが弱い場合は、周辺のボックスを参考にしてください。

指導課題は、一つ、もしくは参考になるボックスの中から、一人ひとりに合わせて選んでください。

保護者や、理解できる場合は本人と相談しながら、適切な課題を選んでください。

補助評価、不適切行動評価も該当する場合は記録してください。



＜要介護度の評価測定に関する試案表＞

【理解の特徴】		聞いて理解( = > < )	見て理解(サイン、絵、文字)	【表現の特徴】	話す( = > < )	サイン、絵、文字	【身体で覚える】	( + - )	
	A. ティーダイ で渡す	B. 「～して」 を実行	C. 「あとで」 で待てる	D. 順番を守る	E. 目標を意識し、 取り組む (「目標を意識し」に は、上達欲求があ ること)	F. じゃんけんが わかる (人数など外的要 因に関係なく、構造 を理解しているこ と)	G. 決められた時 間に自分で寝る (「決められた時間」 を決めるのは、保 護者等。本人では ない)	H. よそで行儀よく できる (「ウチとソト」の意 識の発生を意味す る)	I. 時間に合わせ 計画的に行動す る (この時間は、社会 的にみて合目的で 妥当性があること)
0. 音源定位：音 や声に気づく	0-A	0-B							
1. 何、誰がわ かる	1-A	1-B	1-C						
2. 二語文理解 (場面依存では ない)	2-A	2-B	2-C	2-D	2-E				
3. 三～多語文 理解 (場面依存では ない)		3-B	3-C	3-D	3-E	3-F			
4. 重文・複文 理解 (場面依存では ない)			4-C	4-D	4-E	4-F	4-G		
5. 絵本、アニメ の筋に興味を 持つ				5-D	5-E	5-F	5-G	5-H	
6. 伝言を理解・ 実行する					6-E	6-F	6-G	6-H	6-I
7. マンガなどを 読んで理解す る						7-F	7-G	7-H	7-I
8. 連絡帳にメモ 書きし、行動 する							8-G	8-H	8-I

- (0) 音の方を向く、嫌な音に顔をしかめる。  
 (1) 「こつぷはどれ?」で、いくつかの絵のうちコップを指す。写真の中で「ママはどれ?」で母をさす。  
 (2) 「～のみみ」「～のくつ」「バナナを食べるもの」などが分かる。座るものなどが何かわかる。  
 (3) 「お母さんがりんごを切っている」などの文が分かる。「女の子がクレヨンで船を書いている」などの文が分かる。  
 (4) 「～してから\*\*する」など時系列のある指示が分かる。「お母さんは本を読んでいる、お父さんはテレビを見ている」などの文が分かる。  
 (5) 「お母さんが男の子を描く」などの可逆文が分かる。  
 (6) 「男の子をお母さんが描く」のように倒置表現をしても可逆文の意味が分かる。「あげるーもらう」「怒るー怒られる」が分かる。  
 (7) 「～に書かせる」など使役文が分かる。  
 (8) 「猫を抱いているお母さんを男の子が追いかける」など関係節が分かる。

※補助評価は障害を示唆する可能性があり、慎重に評価すること

	補①言語表現	補②記憶量	補③操作能力(物)
I 前	表現できず	記憶できず	
I	喃語または単語	記憶量(1)	コップをもって一人で飲む (あまりこぼさず)
II	二語文、助詞の使用	記憶量(2) 二語文復唱	牛乳をコップに注ぐ
III	あったことを話す	記憶量(3) 三語文復唱	一人で運動靴がはける
IV	したい事を言う	記憶量(4) 4数詞復唱	普通の洋服の着脱ができる (ボタン、ファスナ)
V	「どうして」に答える	記憶量(5) 5数詞復唱	雑巾をしぼれる
VI	経験したことを、感想 をまじえて話す	記憶量(6) 6数詞復唱	箸が上手に使える(細かい ものをささむ、こぼさな い)
VII	文字で経験したことを 表現する	記憶量(7) 7数詞復唱	爪きりができる
VIII	グループ内で自分の 意見を言う	同時に二つの作業 をする	包丁が使える

不適切行動 □:チェック欄 (1:しばしば 2:まれに)		
行動の内容	頻度	具体的内容
<input type="checkbox"/> 自傷	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 他傷	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 感情の脱コン	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 奇声・声だし	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 多動・注意の散漫	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 強迫行動	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 固まる	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> 予定変更への拒否	( 1 2 )	
<input type="checkbox"/> こだわり	( 1 2 )	

0-A	ちょうだいで渡す、人の声に気づく
子どもの姿	<p>「ちょうだい」といいながら身振りで示すと、子どもが手に持ったものを渡します。この時に、意味が分かるということだけではなく、相手を意識する、あるいはじっとものを見つめる、そういう力が育ってきたこととなります。</p> <p>自分で何かを探したり、おもちゃをよく触ったりして遊ぶ姿が盛んになってきます。発達に問題があると、人を意識する力が弱かったり、あるいは言葉や身振りの意味を理解することが難しくなったりします。まずは、ここにかかっているような課題を丁寧に行っていくことが大切です。それが、人を意識する力や、言葉やサインに気付かせることにつながるからです。</p>
生活 食事	<p>スプーンやフォークを持つ</p> <p>大人が子どもの手の上から押さえながらスプーンやフォークを持つよう教えます。</p>
着脱	<p>服の着脱</p> <p>子どもの手に服を持たせて大人が始めの部分を手伝いながら、脱ぎ着の方向に手を促します。</p> <p>着るときは、頭にかぶせ、顔を出せるよう、すそを押えておきます。</p> <p>脱ぐときは、すそを持たせつつ、肘を引く動きを伝えます</p>
排泄・清潔	<p>トイレで排泄</p> <p>トイレになじむように、少し長い時間座ります。4才を過ぎていたら、トイレで粘る時間を延ばします。</p>
手伝い	<p>ごみ捨て</p> <p>ゴミ箱に入れられるように手からゴミを離すのがポイントです。</p>
運動	<p>①膝立ちをする</p> <p>子どもが立ち上がる前に、足腰の力を強めること、バランスをとることを練習として、膝立ちをします。正座からお尻を上げて、膝でバランスをとります。つま先で支えると、バランスの練習になりません。頭、肩、腰、膝が垂直になるようにします。10数えるくらいを目安にします。</p> <p>②マッサージをする</p> <p>触覚は、基本的な情報の取り入れ口です。背中やお腹、足首など緊張が強く入りすぎていると、情報が適切に取り入れられません。触られることが苦手な子です。タッピングや揺らすことから始めると、受け入れやすくなります。乾布摩擦などの皮膚刺激も有効です。</p> <p>③ボールのやりもらい</p> <p>子どもの後ろからついてまわるだけでは、人を意識させることはできません。物をあげたりもったりすることで人を意識するきっかけが作れます。最初は強制的に行う必要があるかもしれませんが、繰り返すことで子どもが自分から動き出すようになります。</p>
認知・手指操作	<p>①形と模様:形に注目しない</p> <p>②描く・書く:描けない</p> <p>③動作模倣:模倣しない</p> <p>④時間:睡眠、覚醒のパターンが決まる</p>

O-A	ちょうだいで渡す、人の声に気づく
言語・コミュニケーション	
①理解	<p>◎物を持たせると、型はめをする、中に入れる、マッチングするなど、求められていること(意味)がわかる。</p> <p>☆物と物との関係が分かるようにしていきます。(要修正)この場合、2つの段階が考えられます。例えばコップを重ねる課題の場合、最初の段階は子どもがコップを持っていて、目の前のコップとお皿に対して分けさせます。次の段階でははじめ子どもは何も持っておらず、大人が持っているコップに注目して、目の前のコップとお皿のうちコップを探して選ぶよう促します。組み合わせる選択肢の数や種類に配慮しながら進めます。</p>
②表出	<p>◎抱っこなどのような直接的な身ぶり表現で要求する。</p> <p>☆身ぶりを模倣させるのではなく、子どもが何かをしてみらおうとして行った動作をとらえて、身ぶりとして位置づけていきます。たとえば、大人が子どもを抱っこしようと手を伸ばすと、子どもは抱っこされやすいように少し両腕を上げます。この動きを利用して、1~2秒ずつ実際に抱き上げるまでの時間を延ばしていきます。こうすることで、腕を少し上げて前に伸ばすと抱っこしてもらえることを経験させていきます。</p>
③関わり	<p>◎相手の手を引っ張って人を呼ぶ。</p> <p>☆一緒に生活していると子どもが何を要求しているかは、様子や生活リズムから察することができかもしれませんが、しかし、察しが良過ぎると、子どものほうからの「なんとか伝えよう」という気持ちを育てる機会が減ってしまうことにつながります。大人が子供の思いに気づいたら、子どもの近くに寄って子どもを押すような形で欲しい物に近づいていく、子どもに近い方の手で指さしをしてみせるなどからはじめ、大人の腕を子どもが引っ張るように(クレーンといいます)促していきます。(要修正)</p> <p>◎片づけができる。</p> <p>☆理解で行った「分ける」という行動を家庭で行うと「お片づけ」になります。ゴミを持ったら、ゴミ箱に捨ててもらい、かばんを決まった場所に片付けるなどを、生活リズムの中の「決まりごと」として組み込んでいきます。大人は、物を渡すときに、自分の顔の前に物を持ってくるようにすると、視線を合わせやすくなります。</p>
④関わり態度面	<p>◎物を介してアイコンタクトが可能になる。</p> <p>☆子どもに物を見せる・渡すときの位置は重要です。必ず大人の顔の前に物を示して、子どもの見ている範囲に物と人が入るようにします。物を見ずに手だけ伸ばして取ろうとするときには、物を引いて取れないようにして視線が大人に向いたときに渡すようにします。これにより、「物を手に入れた」のではなく「人から渡してもらった」ことを意識しやすくなります。</p> <p>◎セラピストを意識して、見る、止まる、行動する。</p> <p>☆大人が物を持っていなくても、大人の声の調子・抑揚で○×を判断できるようにします。始めは、やりたいようにできれば快、直接制止されれば不快ないしあきらめという判断です。快・不快に関わらず、大人に介入される経験を積み、待つといいことがある(コチョコチョの中断など)、これをする怖い等を明確に示しながら、人に対する意識を高めていきます。</p>

0-B	ちょうだいで渡す、人の声に気づく
子どもの姿	<p>「ちょうだい」といいながら身振りで示すと、子どもが手に持ったものを渡します。この時に、意味が分かるということだけではなく、相手を意識する、あるいはじっとものを見つめる、そういう力が育ってきたこととなります。</p> <p>自分で何かを探したり、おもちゃをよく触ったりして遊ぶ姿が盛んになってきます。発達に問題があると、人を意識する力が弱かったり、あるいは言葉や身振りの意味を理解することが難しくなったりします。まずは、ここにかかっているような課題を丁寧に行っていくことが大切です。それが、人を意識する力や、言葉やサインに気付かせることにつながるからです。</p>
生活 食事	<p>①スプーン・フォークを持続的に持つ</p> <p>すぐにスプーン・フォークを離してしまわず持ち続けられるように促していきます。</p> <p>②できるだけいろいろな味と食材になれる</p> <p>わずかでも、一口でもさまざまな味、食材になじむようにする</p>
着脱	<p>立位で着脱</p> <p>立ったまま、靴やズボンを脱ぎはきします。次の行動に移りやすくする効果もあります。</p>
排泄・清潔	<p>トイレで排泄(排泄の習慣化)</p> <p>トイレに連れて行けば排尿・排便ができるように時間を見ながら排泄の習慣をつけていきます。</p>
手伝い	<p>①荷物運び</p> <p>自分のかばんや買い物の荷物を5分ぐらいから持続して持ってもらいます。</p> <p>②布団敷き</p>
運動	<p>①手押し車</p> <p>体を支える筋力の一つ。手先を器用に動かすには腕の力が必要です。その腕の力を強くします。子どもの四つ這いの姿勢から足を大人が持ってあげて、腕だけで支えます。この姿勢のまま前に進んでいきます。5mぐらいを目安に手で歩いていきます。</p> <p>②立ち座り</p> <p>立ったり座ったりの繰り返しの運動です。足腰の筋力を高めます。しゃがむのが難しいときは、小さな椅子や台に腰をかけるようにします。大人の声かけに合わせて動くようにします。20～30回繰り返してください。</p> <p>③四つ這い鬼ごっこ(追っかけっこ)</p> <p>社会性のある子なら、大人と追っかけっこをすることを喜ぶと思います。四つ這いで逃げ回ること、人への意識を育てるだけではなく、体支持力や手足の協調性を高める練習にもなります。何周やったら終わりというのではなく、疲れるまで楽しんでもらってよいと思います。</p>
認知・手指操作	<p>①形と模様:物を入れることを促す</p> <p>②描く・書く:書くものをもたせると書こうとする</p> <p>③動作模倣:大きな動作を模倣する</p>

## 参考資料

(1 分間タイムスタディのための調査用紙・マニュアル)

—本参考資料はこれまでの資料を基に新たに本研究班において作成した—  
(本研究班の責任において調査員研修ビデオを作成し、研修に利用した)

## 資料1 状態調査票

1-1 麻痺等の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可)

1. ない	2. 左上肢	3. 右上肢	4. 左下肢	5. 右下肢	6. その他
-------	--------	--------	--------	--------	--------

1-2 関節の動く範囲の制限の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可)

1. ない	2. 肩関節	3. 肘関節	4. 股関節	5. 膝関節	6. 足関節	7. その他
-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

2-1 寝返りについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる	2. 何かにつかまればできる	3. できない
---------------	----------------	---------

2-2 起き上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる	2. 何かにつかまればできる	3. できない
---------------	----------------	---------

2-3 座位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 自分の手で支えればできる	3. 支えてもらえればできる	4. できない
--------	-----------------	----------------	---------

2-4 両足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 支えなしでできる	2. 何か支えがあればできる	3. できない
-------------	----------------	---------

2-5 歩行について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる	2. 何かにつかまればできる	3. できない
---------------	----------------	---------

2-6 移乗について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

2-7 移動について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

3-1 立ち上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる	2. 何かにつかまればできる	3. できない
---------------	----------------	---------

3-2 片足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 支えなしでできる	2. 何か支えがあればできる	3. できない
-------------	----------------	---------

3-3 洗身について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 一部介助	3. 全介助	4. 行っていない
--------	---------	--------	-----------

4-1 じょくそう（床ずれ）等の有無について、あてはまる番号に○印をつけてください。

ア. じょくそう（床ずれ）がありますか	1. ない	2. ある
イ. じょくそう（床ずれ）以外で処置や手入れが必要な皮膚疾患等がありますか	1. ない	2. ある

4-2 えん下について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. できない
--------	---------	---------

4-3 食事摂取について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

4-4 飲水について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

4-5 排尿について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

4-6 排便について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

5-1 清潔について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

	1. できる	2. 一部介助	3. 全介助
ア. 口腔清潔（はみがき等）	1	2	3
イ. 洗顔	1	2	3
ウ. 整髪	1	2	3
エ. つめ切り	1	2	3

5-2 衣服着脱について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

	1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
ア. 上衣の着脱	1	2	3	4
イ. ズボン、パンツ等の着脱	1	2	3	4

5-3 薬の内服について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 一部介助	3. 全介助
--------	---------	--------

5-4 金銭の管理について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 一部介助	3. 全介助
--------	---------	--------

5-5 電話の利用について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 一部介助	3. 全介助
--------	---------	--------



5-6 日常の意思決定について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |        |                 |           |         |
|--------|-----------------|-----------|---------|
| 1. できる | 2. 特別な場合を除いてできる | 3. 日常的に困難 | 4. できない |
|--------|-----------------|-----------|---------|

6-1 視力について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |                       |
|-----------------------|
| 1. 普通（日常生活に支障がない）     |
| 2. 約1 m離れた視力確認表の図が見える |
| 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える |
| 4. ほとんど見えない           |
| 5. 見えているのか判断不能        |

6-2 聴力について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |                      |
|----------------------|
| 1. 普通                |
| 2. 普通の声がやっと聞き取れる     |
| 3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる |
| 4. ほとんど聞えない          |
| 5. 聞えているのか判断不能       |

6-3 意思の伝達について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |                      |
|----------------------|
| 1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる |
| 2. ときどき伝達できる         |
| 3. ほとんど伝達できない        |
| 4. できない              |

6-4 介護者の指示への反応について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |               |                   |                |
|---------------|-------------------|----------------|
| 1. 介護者の指示が通じる | 2. 介護者の指示がときどき通じる | 3. 介護者の指示が通じない |
|---------------|-------------------|----------------|

6-5 記憶・理解について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |                           |        |         |
|---------------------------|--------|---------|
| ア. 毎日の日課を理解することが          | 1. できる | 2. できない |
| イ. 生年月日を答えることが            | 1. できる | 2. できない |
| ウ. 年齢を答えることが              | 1. できる | 2. できない |
| エ. 面接調査の直前に何をしていたか思い出すことが | 1. できる | 2. できない |
| オ. 自分の名前を答えることが           | 1. できる | 2. できない |
| カ. 今の季節を理解することが           | 1. できる | 2. できない |
| キ. 自分がいる場所を答えることが         | 1. できる | 2. できない |

7 行動について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

ア.物を盗られたなどと被害的になることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
イ.作話をし周囲に言いふらすことが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
ウ.実際にはないものが見えたり、聞えることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
エ.泣いたり、笑ったりして感情が不安定になることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
オ.夜間不眠あるいは昼夜の逆転が	1. ない	2. ときどきある	3. ある
カ.暴言や暴行が	1. ない	2. ときどきある	3. ある
キ.しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
ク.大声をだすことが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
ケ.助言や介護に抵抗することが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
コ.目的もなく動き回ることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
サ.«家に帰る»等と言い落ち着きがないことが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
シ.外出すると病院、施設、家などに1人で戻れなくなることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
ス.1人で外に出たがり目が離せないことが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
セ.いろいろなものを集めたり、無断でもってくるものが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
ソ.火の始末や火元の管理ができないことが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
タ.物や衣類を壊したり、破いたりすることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
チ.不潔な行為を行う(排泄物を弄ぶ)ことが	1. ない	2. ときどきある	3. ある
ツ.食べられないものを口に入れることが	1. ない	2. ときどきある	3. ある (3A. 週1回以上 3B. ほぼ毎日)
テ.ひどい物忘れが	1. ない	2. ときどきある	3. ある

8 過去14日間に受けた医療について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可)

処置内容	1. 点滴	2. 中心静脈栄養	3. 透析	4. ストーマ(人工肛門)の処置
	5. 酸素療法	6. レスピレーター(人工呼吸器)	7. 気管切開の処置	
	8. 疼痛の管理	9. 経管栄養(胃ろうを除く。)	10. 胃ろう	
特別な対応	11. モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度等)		12. じょくそうの処置	
失禁への対応	13. カテーテル(コンドームカテーテル、留置カテーテル、ウロストーマ等)			

9 日常生活自立度について、各々該当するもの一つだけ○印をつけてください。

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)	自立・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2
認知症高齢者の日常生活自立度	自立・I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M

10-1 日中の生活について、あてはまる番号一つだけ○印をつけてください。

1. よく動いている	2. 座っていることが多い	3. 横になっていることが多い
------------	---------------	-----------------

10-2 外出頻度について、あてはまる番号一つだけ○印をつけてください。

1. 週1回以上	2. 月1回以上	3. 月1回未満
----------	----------	----------

10-3 生活の不活発化の原因となるような家族・居住環境、社会参加等の状況の変化について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ない | 2. ある |
|-------|-------|

11-1 本人独自の表現方法を用いた意思表示について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |  |  |
|--|--|
| 1. 独自の方法によらずに意思表示ができる。<br>2. 時々、独自の方法でないと意思表示できないことがある。<br>3. 常に、独自の方法でないと意思表示できない。<br>4. 意思表示ができない。 |  |
|--|--|

11-2 言葉以外のコミュニケーション手段を用いた説明の理解について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |  |  |
|--|--|
| 1. 日常生活においては、言葉以外の方法（ジェスチャー、絵カード等）を用いなくても説明を理解できる。<br>2. 時々、言葉以外の方法（ジェスチャー、絵カード等）を用いないと説明を理解できないことがある。<br>3. 常に、言葉以外の方法（ジェスチャー、絵カード等）を用いないと説明を理解できない。<br>4. 言葉以外の方法を用いても説明を理解できない。 |  |
|--|--|

11-3 行動

1. 特定の物や人、決めた時間に対する強いこだわりが	1. ない	2. まれ にある	3. ときどき ある	4. よくある
2. 多動が	1. ない	2. まれ にある	3. ときどき ある	4. よくある
3. 行動の停止が	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
4. パニックや不安定な行動が	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
5. 自分の体を叩いたり傷つけたりするなどの行為が	5. 1日 中ある	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
6. 叩いたり蹴ったり器物を壊したりなどの行為が	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
7. 他人に突然抱きついたりすることが	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
8. 断りもなく物を持ってこることが	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
9. 環境の変化により、突発的に通常と違う声を出すことが	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
10. 突然走っていなくなるような突発的行動が	1. ない	2. まれ にある	3. ときど きある	4. よくある
11. 過食、反すう等の食事に関する行動が	1. ない	2. まれ にある	3. ときどき ある	4. よくある

12. 気分が憂鬱で悲観的になったり、時には思考力も低下することが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
13. 再三の手洗いや、繰り返しの確認のため、日常動作に時間がかかることが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
14. 他者と交流することの不安や緊張のため外出できないことが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
15. 一日中横になっていたり、自室に閉じこもって何もしないでいることが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
16. 話がまとまらず、会話にならないことが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
17. 集中が続かず、やりかけたことを途中で投げ出すことが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
18. 現実には合わず高く自己を評価することが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある
19. 他者に対して疑い深く拒否的であることが	1. ない	2. まれにある	3. ときどきある	4. よくある

12-1 調理（献立を含む）について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-2 食事の配膳・下膳（運ぶこと）について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-3 掃除（整理整頓を含む）について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-4 洗濯について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-5 入浴の準備と後片付けについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-6 買い物について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-7 交通手段の利用について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------

12-8 文字の視覚的認識使用について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り	3. 一部介助	4. 全介助
--------	--------	---------	--------